

英米の児童文学 I



授業紹介

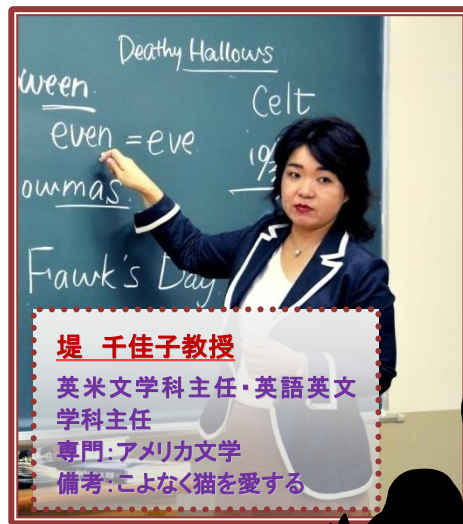
この授業では主に**アメリカの児童文学**を取り上げます。

アメリカの児童文学は、ファンタジー系の作品も多いイギリスのものに比べ、リアリズムに根付いた作品が多くみられることが特徴の一つです。

児童文学は子供を対象とした作品ですが、易しい表現の中に本質的なものを追求し、大人の鑑賞にも耐えられるものが多くみられます。**作品を読み込んでいくことで、子供を取り巻く当時の社会状況や文化的背景を探っていきます。**子供のころに読んだものでも、さまざまな知識の裏付けを持って再読すると、新たな発見をすることができます。また翻訳にしても、子供向けのため語彙や字数が限られているので、かなり高度な英語力と日本語力が必要となります。**語学力や異文化理解力の向上も期待できます。**

例えば、『赤毛のアン』（カナダの作品）には、聖書やシェイクスピアをはじめとする数えきれないほどの文学作品が読み込まれています。「どうしてこんな表現が出てくるのだろう」と思うようなことにも、裏付けがあるのです。またパフスリーブ（袖のふくらんだ洋服）の流行にしても、産業革命の影響やミシンの発明・普及がその背後にあります。ほかにもなじみのある作品を新たな視点でとらえなおす楽しみがあります。

この授業では『ハックルベリー・フィンの冒険』、『小公女』、『秘密の花園』といった作品や、絵本、ディズニー作品などを取り上げます。



堤 千佳子教授

英米文学科主任・英語英文
学科主任

専門：アメリカ文学

備考：こよなく猫を愛する



ウワサ話 about 堤先生

※これは堤先生の教え子たちが教えてくれたウワサ(の一部)です。

【登場人物】



- ソ→ソギ (杉本麻悠美)
…隠れっかり者
- す→すなみよん (西村早苗)
…自虐キャラ
- さ→さえきどん (佐伯彩香)
…ハイテンション

【ウワサ】

- ソ：この間さあ、堤先生を電車の中でお見かけしたんちゃあ！
すごい真剣に本読んどったよ！
- さ：だって先生、本っ当に、どの分野も全部網羅しとるくらい知識持っとるもんね。
- す：頭良すぎよね！英検1級も持っとるし！
- さ：アメリカ文学やったら作者とタイトルと内容、完璧やもんねえ。
- ソ：そうよねえ。ゼミの時もメモ取れんぐらいものすごい数言われるもんね！
- す：自分がどんだけ本読んでないかが分かる…。(苦)
私達もちゃんと読まんといけんね。先生に申し訳ない！

- 一同：うーん…。(落ち込み)
- ソ：ゼミで思い出したんやけどさあ、“The Strawberry Season” (注) 読んだ時、「先生、乙女やなあ」と思ったっちゃ〜(笑)
- さ：堤先生って意外と恋の話とかお好きよね♥
- す：先生の結婚までの馴れ初めとか聞いてみたいよね。
- ソ：先生、旦那さんのこと大好きなんやなって思うもん♥
- さ：娘さんとも仲良さそうやしね↑↑
- 一同：ふいふい♥
- す：ところでさ、先生たまに忘れ物されるよね。人のこと言えんけど(笑)。
- さ：パーフェクト・ウーマンかと思いきや、よね！
- ソ：そういう姿見るとちょっと安心する(´▽`)
- す：そういうこと、親しみやすいよね。
- さ：それも含めて、堤先生のゼミにして良かった〜。
- ソ：堤先生のおかげでアメリカ文学の楽しさとか分かったし、勉強頑張らんとって思えるもんね。
- 一同：堤先生、最高っ★

(注) “The Strawberry Season”
著者アースキン・コールドウェル。 苺摘みの季節のある一日、思春期の少年と少女のみずみずしい交流を描いた作品。

